

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・3か月予報では、2月は暖かい日が続くということであり、春物が早く動き始めることで、例年よりも売上が良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・販売量及び来客数が若干上向いていることから、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・11月26日に札幌圏のタクシーの値上げが公示され、12月17日から値上げが実施される。値上げとともにタクシーの売上が増加する期待がある。
		設計事務所（職員）	・建築基準法の改正や建築資材の高騰により、着工保留や延期になっていた建設工事が動き始める。雪解けという気候条件の手助けもあり、建設業界の景気は多少浮揚すると期待している。
変わらない	変わらない	スーパー（役員）	・北海道では、特に冬期間の重油、灯油の値上がりは直接家計に響くことが想定されるが、今のところは食料品などで大きな買い控えも感じられないことから、今後についても変わらないまま推移する。
		高級レストラン（スタッフ）	・食品や灯油の値上げにより、レストラン業界は苦境に立たされている。メニューの値上げもできず、この先数か月はどのくらいの影響が出てくるのか、全く想像が付かない状態である。
		観光型ホテル（経営者）	・道内客、道外客とも来客数が回復する要因があまり無く、宿泊単価の上昇だけでは売上の減少をカバーできない。今後については厳しい見通しにあり、前年比で10%台の落ち込みと推測している。
		旅行代理店（従業員）	・景気が良くなる要因が無く、不安材料ばかりが目立っており、今後についても厳しいまま変わらない。
やや悪くなる	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ガソリン、灯油を始めとした生活必需品が順次、値上げされてきており、財布のひもを締める消費心理がますます働き、購買力の低下が必至である。食品、灯油などの消耗品は大きな落ち込みは出てこないだろうが、衣料品や寝装品、食器、家電などは大きく落ち込む。
		商店街（代表者）	・株安、円高を始め、サブプライムローン問題により生じる様々な問題の結果、消費者がますます買い控えの方向へ動く。
		百貨店（売場主任）	・灯油、ガソリンから食品まで、生活必需品の値上げが続く。家計への影響が更に広がることが予想される。その上、今の政局不安定が追い討ちをかけ、しばらくは景気のダウントレンドが続く。
		百貨店（売場主任）	・寒くなる時期であることから、防寒物の動きに少しは期待しているが、原油の高騰の影響により、様々な商品で値上げが続いていることから、客の心理に買い控え、節約といった意識が強く出ており、今後についてはやや悪くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・景気の不透明感が続いているなか、財布のひもは緩みそうもない。
		スーパー（店長）	・前年と比較すると、11月も販売量が4%ほど落ち込んでおり、依然として回復の見通しが立っていない。
		スーパー（企画担当）	・冬場の燃料費の負担増、各メーカーサイドからの商品価格の上昇圧力などもあり、消費者の買い控え傾向が徐々に強まっているように感じる。特に、ガソリンの値上げ直前に自動車なが長蛇の列を作る光景などを目にするにつけ、今後の商戦の厳しさがひしひしと感ぜられる。
		スーパー（役員）	・灯油価格の上昇が生活を直撃するという北海道だけの要素かもしれないが、灯油価格の上昇とともに買い控えが進み、景気はやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・公務員の給与削減、中小企業の冬季賞与減に加えて、1次産業の不振、公共工事の減少など、所得減少の影響が大きく、今後についてはやや悪くなる。また、卸再編の流れの中で、零細小売店も厳しい状況となり、年明けは資金繰り難で廃業が増加する可能性がある。
		コンビニ（エリア担当）	・灯油の高騰等が家計を押し続け、食品への支出を大幅に抑制していく可能性が高いことから、経済環境は更に悪化する。

	コンビニ（エリア担当）	・冬季を迎えて灯油価格の値上げが大きく影響してくる。たばこや酒ビール等のし好品においては売上の減少に歯止めが掛からない状況であり、今後についてはやや悪くなる。	
	衣料品専門店（店長）	・今後については良くなる材料がほとんど見付からない。何といても、灯油価格の高騰が響いている。	
	家電量販店（地区統括部長）	・ここ数か月の売上推移をみると、地方圏での地上デジタル放送の開始による薄型テレビの需要増はあまり期待できず、冷蔵庫、洗濯機といった白物家電の需要も前年を下回ると予想されることから、全体の売上としても前年を下回る。	
	乗用車販売店（従業員）	・ガソリン等の価格が上がっているため、小型車の販売が増えているが、単価が低下するため、全体の売上も減少する。	
	観光型ホテル（経営者）	・個人客については今後も安定的に推移していく見通しにあるが、団体客、とりわけ国内団体客が減少傾向にある。外国人客の動きが多少良くなっている気配も感じられるが、国内団体客の減少に歯止めを掛けるといったレベルまでにはなっておらず、今後も客の減少傾向が続く。	
	旅行代理店（従業員）	・原油高騰の影響で旅行商品の価格に影響が出つつある。業務性旅行は前年並みで推移することが見込まれるが、原油高騰が続くと観光性旅行需要が落ち込む状況となってくる。	
	旅行代理店（従業員）	・原油高騰の影響により、じわじわと生活用品の値上げが進んでいる。当然、消費者は家計を圧迫する事態に備えており、娯楽的な要素の強い、旅行に及び腰にならざるを得ない。	
	タクシー運転手	・原油高騰による様々な商品の値上がりから、客が公共交通機関へ乗り代わり、できるだけタクシーを使わないことが予想される。また12月のタクシー運賃の料金改定も不安要素である。	
	タクシー運転手	・原油の高騰、サブプライムローン問題など、景気に良い材料が見当たらない。	
	美容室（経営者）	・ガソリン、灯油の大幅な値上がりがかかなり深刻な状況となっており、それに対する防衛意識が高まっている。客の来店周期も以前より長くなっており、今後の売上減少が予想される。	
	その他サービスの動向を把握できる者	・原油の高騰、食品関連などの値上げから観光マインドは冷えきっており、良くなる要素が見当たらない。	
悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・来客数は前年並みだが、1人当たりの購入金額の少ない状態が続いている。夏以降、たばこのカートン買いやビールのケース買い等、まとめ買いでの購入が減っているが、それが加速してきているような雰囲気があり、今後についてはやや悪くなる。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・灯油価格が過去最高値を更新していることから、家計及び企業の負担がひっ迫する。	
	美容室（経営者）	・灯油等の価格は家計に直結している。これらの製品の値上がりは、財布のひもを固くさせ、客の来店サイクルがますます長くなってくる。	
	美容室（経営者）	・北海道は寒冷地であり、灯油、ガソリンの値上げが不景気に更に拍車を掛ける。	
	設計事務所（所長）	・ガソリン価格の急騰は確実に建設コストに影響を及ぼし始めている。中には便乗値上げと疑いたくなる業者もみられるが、今までぎりぎり頑張ってきた業者も多いので、仕方ないという印象もある。ただ、客の予算と見積りが懸け離れていく傾向は更に加速しそうであり、今後の景気は悪くなることが見込まれる。	
	住宅販売会社（従業員）	・戸建住宅市場においては、所得の不安定さ、金融機関の貸出条件の厳格化が販売に大きく影響しており、短い期間でこれらの状況が改善するとは到底考えられない。	
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	通信業（営業担当）	・現在は、株価下落、原油価格の高騰などを意識して、必要以上の警戒感から景況感が悪化している印象がある。一方で、当社のこの先の受注状況を見ると、予約数が多いことから、1～3月は人員不足による納期調整をしており、今後の景況感は現在よりもやや良くなる。
	変わらない	輸送業（経営者）	・実際の荷物の動きはそれほど悪くないが、燃油の高騰が経営に大きく響いており、燃油価格がどうなるかによって状況が変わってくる。

		輸送業（営業担当）	・燃油の高騰は依然として続いており、トラック部門のコスト負担は限界となっている。今後の状況が問題となってくる。
		金融業（企画担当）	・冬季でもあり、建設関連においては公共投資や住宅着工の好転は見込めない。個人消費は、需要期である灯油の値上がりによる消費マインドの落ち込みや、新築住宅の大幅減少による家具や照明器具などの売行き不振などが懸念される。観光は豪州からのスキー客や道内各地の冬祭りへの入込が期待される。総じて景気は横ばいで推移する。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・具体的な大型物件、大型工事事案が少なく、鉄骨加工業全体への波及は期待が薄いとの見方が大勢を占めている。一部加工業者への発注が出ることを期待している。
	やや悪くなる	食料品製造業（団体役員）	・灯油価格が100円を超えるなど、道内は冬期に入り、生活必需品の値上げが相次いでおり、今後については景気が悪くなる状況にある。
		その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・現時点で新規案件が確定しておらず、先行きが極めて不透明な状況にある。
	悪くなる	建設業（経営者）	・公共工事はもちろん、民間工事についても、新規の受注はほとんど見込めない。これから手持ち工事が完了してくるので、人、物、金の動きはかなり鈍くなることが見込まれる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・採用予定者が十分確保できない企業が多く、追加募集が多い。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・中途採用の求人が、この時期に急激に増加することは望めないことから、今後についても横ばい傾向で推移する。派遣の依頼も同様で、来年の3月以降までは大きな変化が起こりづらいと見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・例年であれば、年末を控えて時期的な雇用が生じていたが、今年はそのような動きもみられないことから、今後についても変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・年末に向かって、企業整理が発生する恐れがあり、予断が許されない状況である。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・依然として小売業、サービス業などは低迷している。原油の高騰等によるコスト増の影響を考えると、資本力のある大手の求人の伸びはあるかもしれないが、中小零細企業の求人件数に明るい材料は無いと感じる。
悪くなる	-	-	